



## 第2章 県民及び防災関係者アンケート調査結果

### 第1節 アンケート調査の目的と方法

#### 1. アンケート調査の目的

鳥取県西部地震発生から半年（調査時点）以上が経過し、各地で復旧作業が進み、公共施設、道路、人々の暮らしなども震災前の姿に戻りつつある。しかし、予期しなかった地震の発生により、家屋の倒壊、半壊などの被害に見舞われた県民の方々の心の傷跡は大きく、また、今なお屋根に青いビニールシートが被さったままの家が見受けられる。

この調査は地震を体験された多くの県民の方々の地震発生時の状況、行動、災害への対応策などを体験記として後世に残すとともに、災害対策にあらゆる面から取り組んだ防災関係者が震災で得た教訓を記録として残すことを目的とするものである。

#### 2. 調査の概要

##### (1) 調査形式

この調査では調査の精度と回収率を高めるため各自治会の代表者にアンケート調査票の配布を依頼し、回収用封筒に密封された調査票を郵送により回収するという留置法で実施した。調査様式は、選択肢方式と、より詳細な意見や実態を把握するための自由記述方式を併用した質問紙調査法をもちいた。

##### (2) 調査時期

2001年3月

##### (3) 調査対象者

###### ① 県民調査

米子市、境港市、西伯町などの鳥取県西部の各市町村における建物被害件数（2001年2月2日現在）を点数化し、さらに集落、丁、区などを建物被害件数により点数化ののち被害件数が10件以上の地域を対象地区として選定した。そして、対象者の選定については、選定地区の自治会代表者に震災の影響を直接的に受けた地域住民の方を任意で抽出していただいた。

〈対象者の選定〉

###### 1) 市町村別の配分方法

- ア 各市町村の建物被害件数（2001年2月2日現在）を点数化  
全壊—4点、半壊—2点、一部破損—1点
- イ 市町村の点数に応じて、1000件を按分
- ウ 調査地点（丁目、大字等）当り10件とし、地点数を配分（合計100地点）

2) 市町村への地点配分表

区分	全壊	半壊	一部破損	合計点数	按分件数	地点数
米子市	100	1,029	4,542	7,000	373	37
境港市	69	264	1,162	1,966	104	10
西伯町	40	389	1,202	2,140	114	11
会見町	2	43	879	973	51	5
岸本町		10	1,097	1,117	59	6
日吉津村	1	12	170	198	10	1
淀江町			330	330	17	2
大山町		1	100	102	5	1
名和町		1	19	21	1	1
中山町			7	7	1	1
日南町		12	368	392	20	2
日野町	129	441	945	2,343	125	13
江府町		1	847	849	45	5
溝口町	45	199	708	1,286	68	7
計	386	2,402	12,376	18,724	993	102

3) 市町村内での地点の選考

- ア 同様に集落、丁目等を単位として、建物被害件数を点数化
- イ 被害件数が10件未満の単独集落等は、原則選考外  
ただし、近隣の複数の集落などを集合して10件以上となれば、総合的に勘案し、対象とする
- ウ 第一に全壊のある集落、第二に半壊のある集落等を優先し、一部損壊しかない集落は、後順位とする
- エ 点数の高い集落等から優先し、地点を決定  
ただし、いくら点数が高くても、その決定した集落等は1地点まで

②防災関係者調査

被害のあった市町村をはじめ、自衛隊、所轄の警察署、消防署など実際に災害対策活動に携わった関係機関、そして電気、ガス、水道などのライフラインの復旧に従事された企業、鳥取県庁内の各関係部署を抽出し、郵送にて配付、回収を行った。

#### (4) 調査票の回収状況

##### ① 県民調査

調査対象者数 1,000名  
回収票数 784票 (回収率78.4%)

##### ② 防災関係者

調査対象者数 390名  
回収票数 256票 (回収率65.6%)

県民調査の市町村別配布、回収状況表

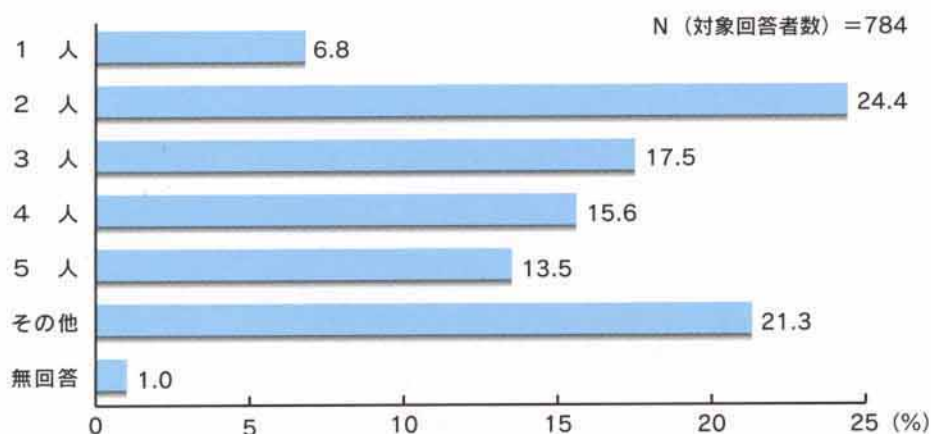
区分	地点数	配布枚数	回収枚数
米子市	35	350	279
境港市	10	100	78
西伯町	11	110	86
会見町	5	50	39
岸本町	6	60	38
日吉津村	1	10	6
淀江町	2	20	19
大山町	1	10	4
名和町	1	10	9
中山町	1	10	8
日南町	2	20	16
日野町	13	130	104
江府町	5	50	39
溝口町	7	70	59
計	100	1,000	784

## 第2節 県民アンケート調査結果

### I 地震発生時の状況

#### 1. 地震発生時の在宅状況

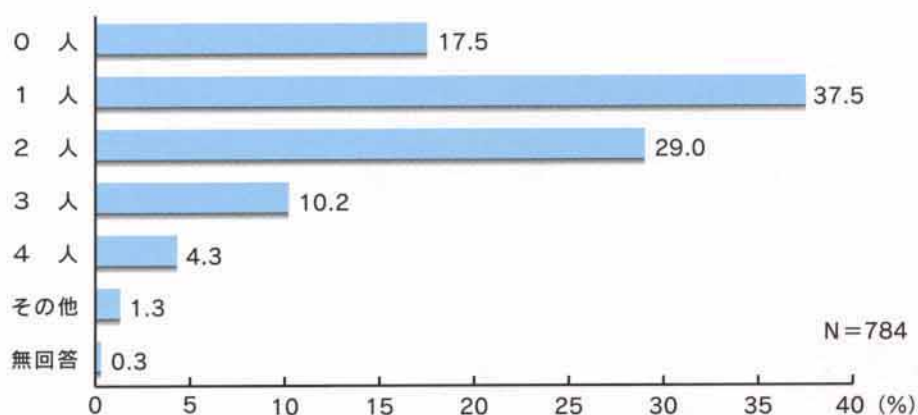
問 あなたの自宅には、何人住んでいましたか。複数世帯の場合は、その合計人数をお答えください。(○印は一つだけ)



#### 2. 地震発生時の在宅人数

問 地震発生時、自宅にいた人は、何人ですか。(○印は一つだけ)

地震発生時には、回答者世帯784世帯のうち647世帯 (82.5%) で、何人かが在宅していた。

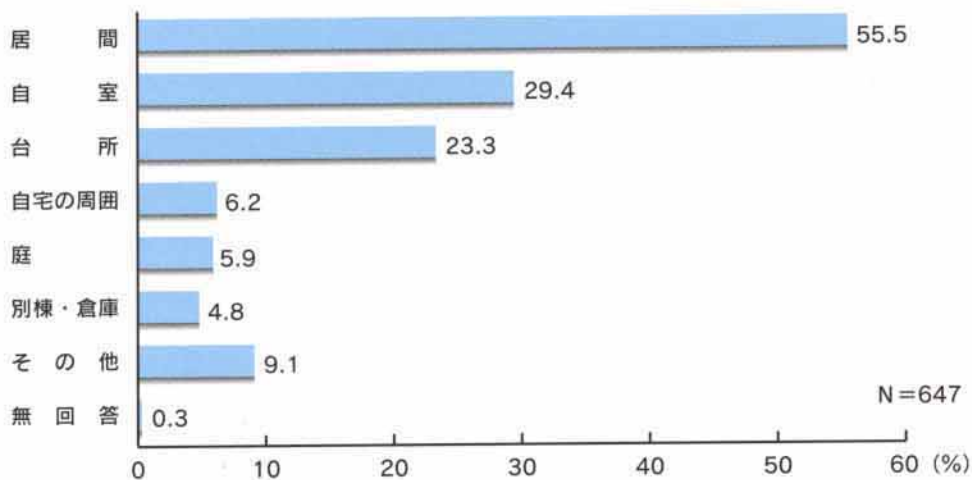




### 3. 在宅者の地震発生時の居場所

問 自宅にいた人は、自宅のどこにいましたか。(あてはまるものすべてに○印)

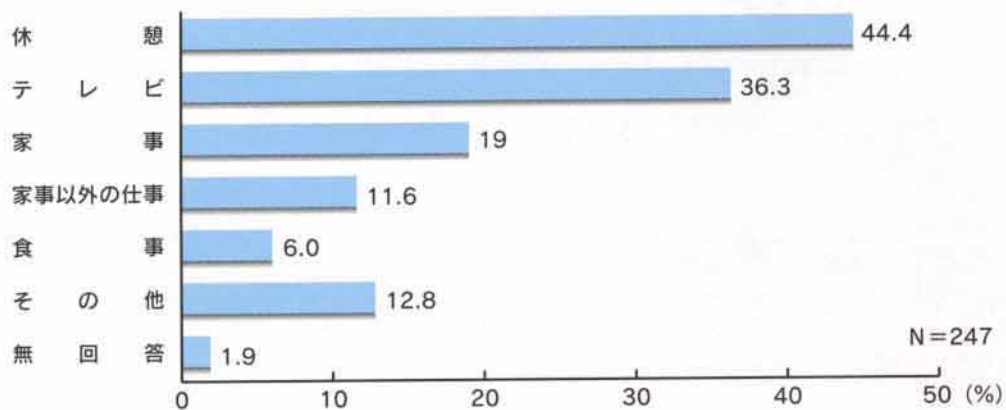
自宅に居た人の多くは、「居間」(55.5%)、「自室」(29.4%)にいた。



### 4. 在宅者の地震発生時の行動

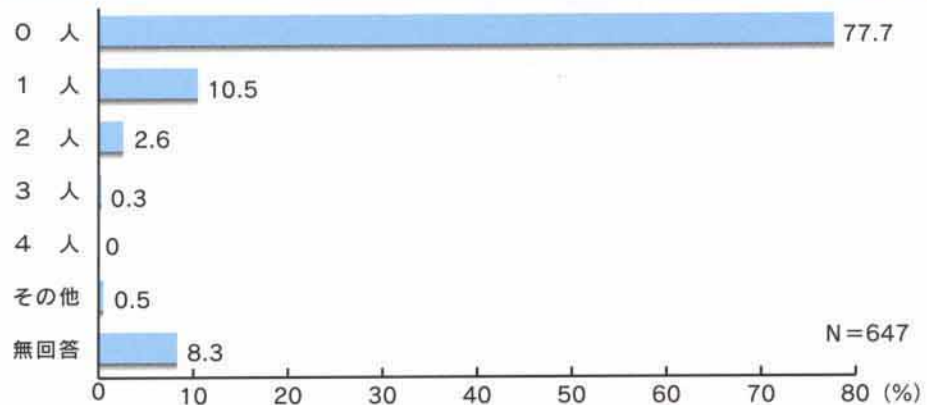
問 自宅にいた人は、何をしていましたか。(あてはまるものすべてに○印)

地震時には、「休憩」(44.4%)、「テレビ」(36.3%)とほとんどの人がくつろぎのひと時を過ごしていた。



## 5. 自宅の2階以上にいた人数

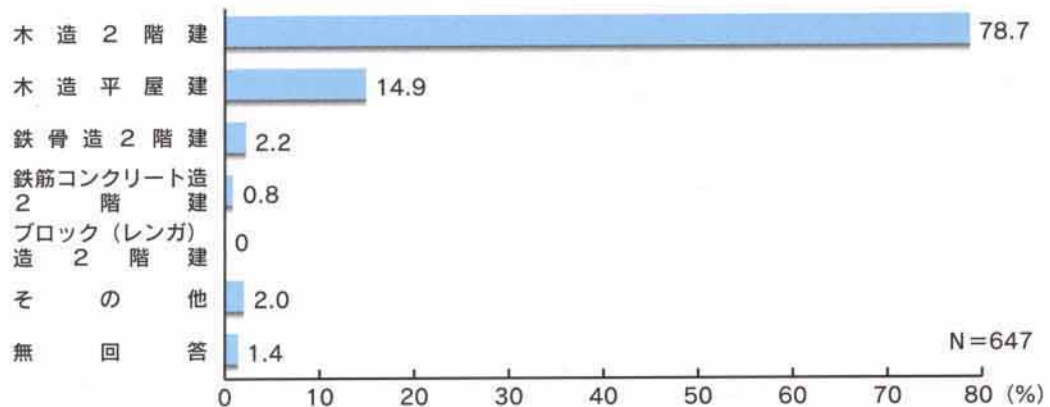
問 自宅にいた人で、自宅の2階以上にいた人は、何人ですか。(○印は一つだけ)



## 6. 自宅（母屋）の構造

問 自宅（母屋）の構造は、何ですか。(○印は一つだけ)

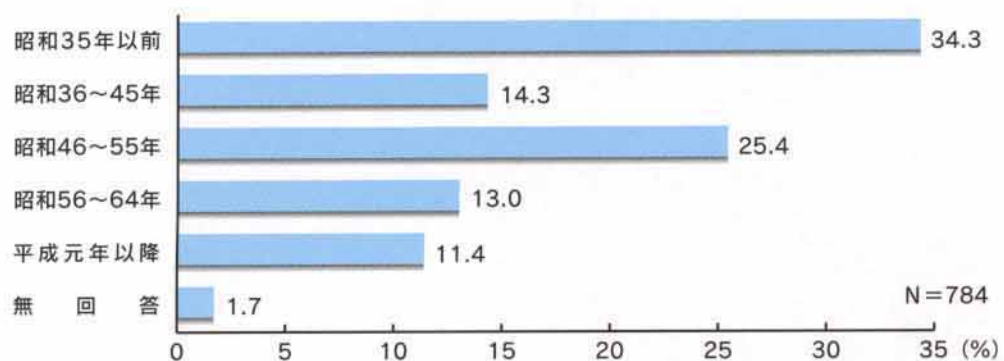
家屋（建物）の構造は、「木造2階建」78.7%、「木造平屋建」14.9%と、家屋の構造のほとんどは木造である。



## 7. 自宅（母屋）の建築年

問 自宅（母屋）が建てられたのは、何年ですか。(○印は一つだけ)

母屋（建物）の建築年は、「昭和35年以前（築後40年以上）」が34.3%と最も多い。

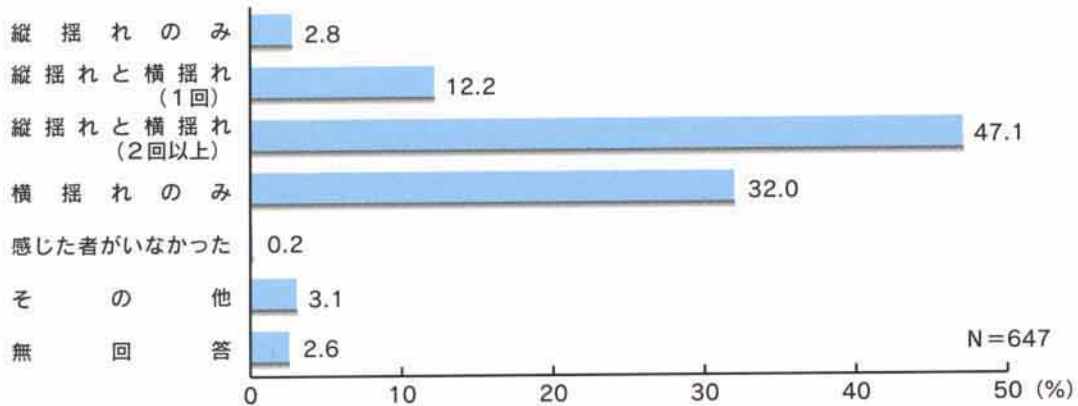


## 8. 自宅での地震の揺れ方

### (1) 揺れの感じ方

問 自宅での地震の揺れ方は、どのように感じましたか。(○印は一つだけ)

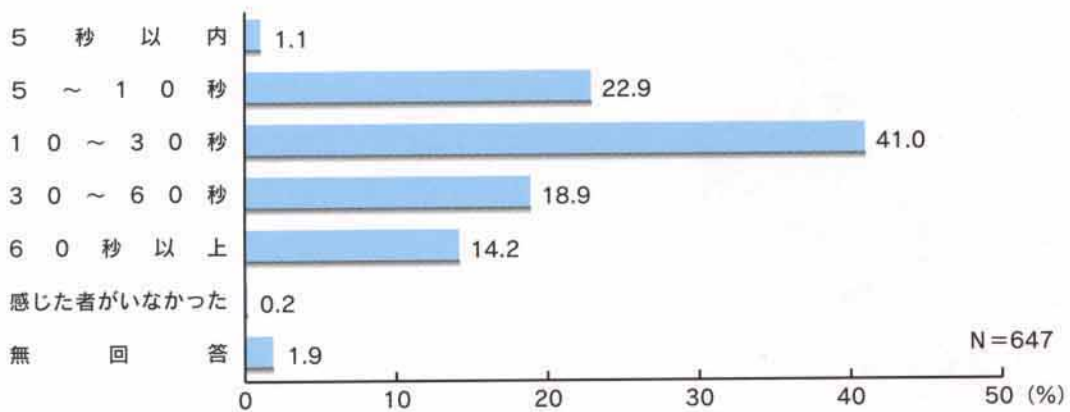
地震の揺れについては、「縦揺れと横揺れ(2回以上)」(47.1%)、また「横揺れのみ」(32.0%)を感じている人が多い。



### (2) 揺れを感じた時間

問 揺れは、何秒くらい続いたと感じましたか。(○印は一つだけ)

揺れを感じていた時間は、「10~30秒」(41.0%)、「5~10秒」(22.9%)、「30~60秒」(18.9%)と30秒以内と感じていた人が多い。

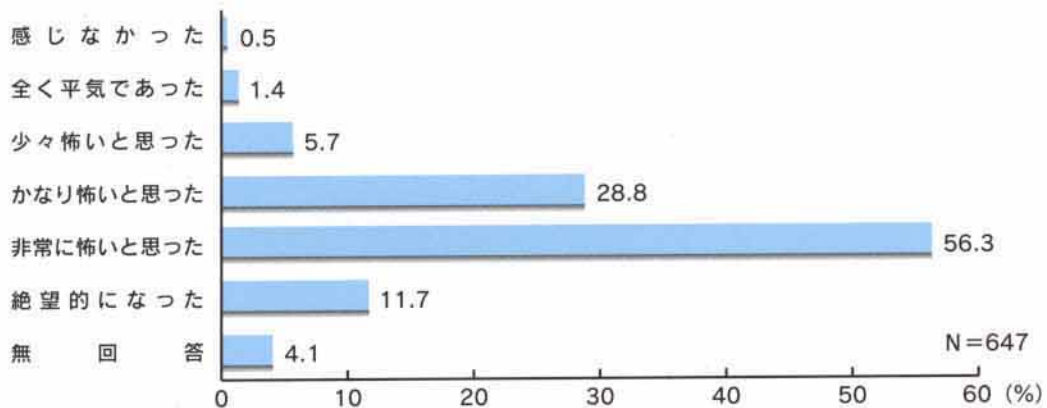




### (3) 揺れに対する恐怖感

問 揺れを感じたとき、怖さの程度は、どのようなものでしたか。

揺れに対する恐怖感は「非常に怖いと思った」(56.3%)、「かなり怖いと思った」(28.8%)、「絶望的になった」(11.7%)と、ほとんどの人が強い恐怖感を覚えている。



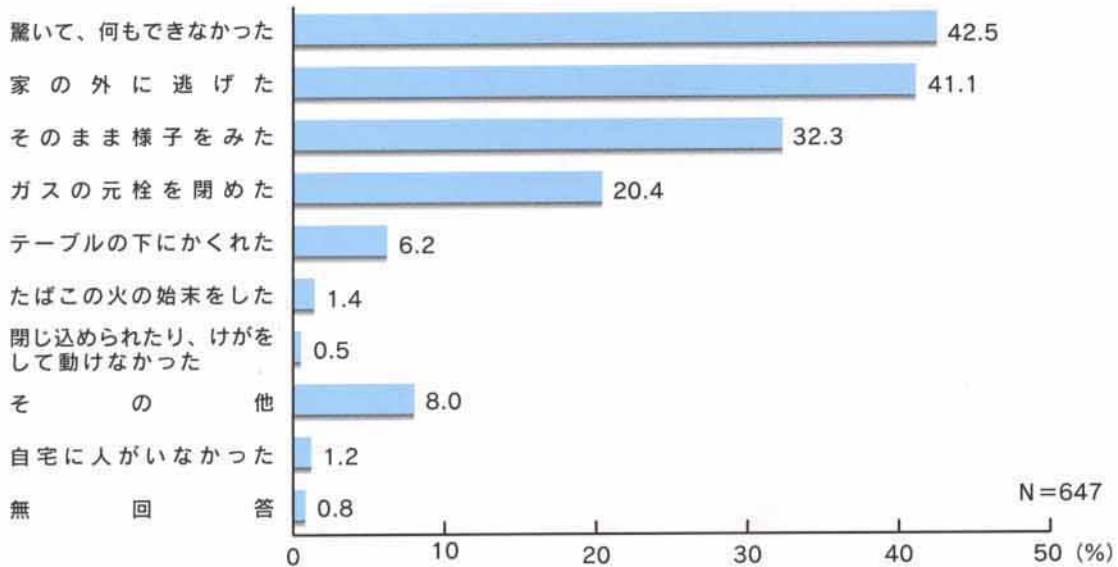
- 昼食のご飯を口にした瞬間「あっ地震だ」と感じたまま固まってしまった。
- 腰が抜けたように動くにも動けず、驚きのあまり声も出なくなりました。
- 私の実家は阪神・淡路大震災で半壊という被害を受けました。今回の地震では、その時の事がよみがえり、私は大変な恐怖でした。
- 孫の怖がる大声の泣き声で何もできず抱いておりました。
- 少し大きな地震があると、防災無線からサイレンのような音がするので、地震よりもその音をお子や病人は恐がった。
- 自宅に帰り、朝出かけた時と様変わった我が家の中を見てガックリというか、涙が出てきた。
- この歳になって地震で度肝を抜かれたことが一番である。わずかな時間で長年かけて築いた人生が一瞬にして終わってしまうような恐ろしさです。

(自由記載欄から抜粋)

#### (4) 地震発生時のとっさの行動

問 自宅にいた人で、地震発生時に、とっさにとった行動は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

地震が発生したときの行動では、「驚いて、何もできなかった」(42.5%)人と、「家の外に逃げた」(41.1%)人が同程度となっている。



- マグニチュード7くらいになると、とっさには何もできないものです。外に出るのが精一杯です。火災にならないように、元栓を止めるくらいだと思う。余震に対しては、テーブルの下に入るくらいだ。
- 病人(介護5)を家で介護している者が寝たきり老人をそのままにして避難できない状態であった。隣と距離があるため、手伝いを求める事もできず困った。
- 後になって考えてみれば、瓦なども屋根から落ちていて危なかったのですが、慌てて外に飛び出していました。

- 2~3年に一度防災訓練に参加しておりました。出口を確保し、ガスの元栓を閉める。非常持ち出しリュックを作り、いろいろ準備していたはずですが、いざという時はテーブルの下に隠れるだけで驚いて何もできませんでした。
- 自宅には老女しかいなくて、早速電話(市内の職場から)したものの、耳が遠いため、出る訳もなく安否が気掛かりで職場の好意ですく自宅に向かいました。

## 9. 家屋の被害

問 自宅で、どのような被害が発生しましたか。(あてはまるものすべてに○印)

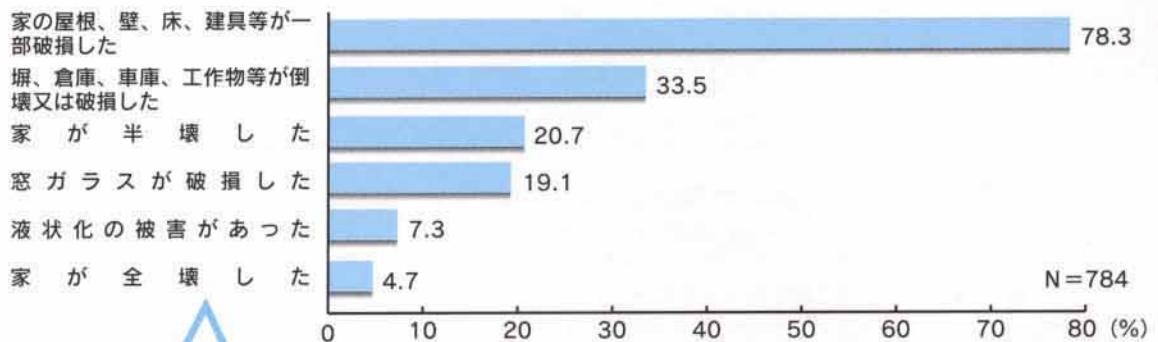
自宅で発生した被害の状況を『家屋の倒壊などの被害』『家屋内の家財等の破損』『電話、ガス、水道等の被害』に大別してみる。

N=784

被害状況(複数回答)	%	件数
『家屋の倒壊などの被害』		
家の屋根、壁、床、建具等が一部破損した	78.3	614
塀、倉庫、車庫、工作物等が倒壊又は破損した	33.5	263
家が半壊した	20.7	162
窓ガラスが破損した	19.1	150
液状化の被害があった	7.3	57
家が全壊した	4.7	37
『家屋内の家財等の破損』		
食器・電化製品・装飾品等が損傷した	68.0	533
家具が転倒した	46.9	368
『電話、ガス、水道等の被害』		
電話が不通となった	25.3	198
水道が止まった	15.2	119
ガスが止まった	7.9	62
停電した	7.4	58

### (1) 家屋の倒壊などの被害

家屋の被害で最も多いものが「家の屋根、壁、床、建具等が一部破損した」で78.3%と8割弱を占めている。



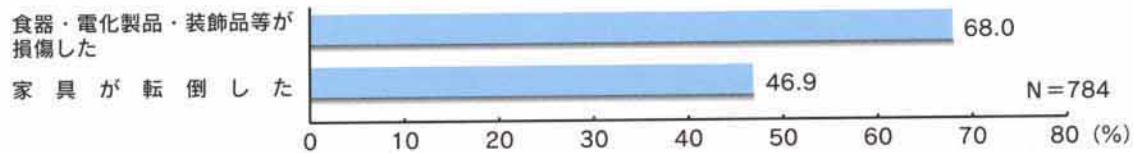
- 地震・火災に強いことを望んで鉄筋コンクリート造りの家建てたが、今回の液状化によって裏目の被害(不等沈下)が出た。
- 墓石の移動、灯籠の破損もあった。隣りの大きな石灯籠が家の墓へ全部倒れたため、壊れたり、倒れたりした。
- 家の中は物が倒れて大混乱。その他襖が全部建て付けたままばらばらに引き裂かれ、風呂場のタイルは斜めに亀裂が入り一番醜いのは、屋根の頂上の瓦がばらばらに崩れ

落ちていた。

- 数十トンもある建物を一瞬のうちに土台ともに20cmもずらした。しかし、建物自体は木組も構造材も大きかったので倒壊は免れた。
- 母屋の棟が倒壊し、裏の納屋の二階の屋根もあちらこちらずり下がっておりました。
- 家屋は一部破損したがそれ以上に裏山が崩れ、家屋への土砂の流入はなかったものの、約1ヶ月避難生活を強いられた。

## (2) 家屋内の家財等の破損

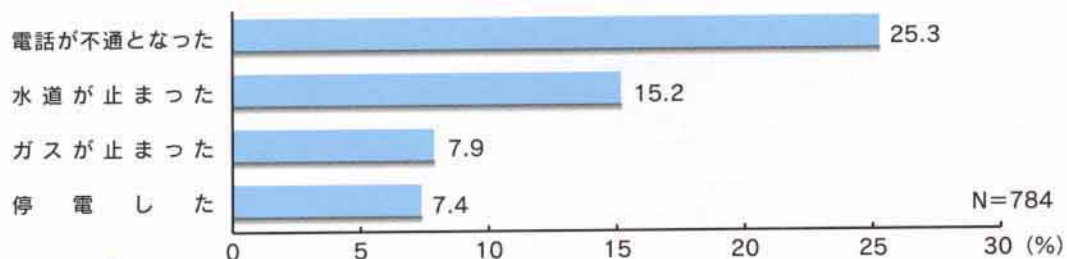
窓ガラス、食器等の家財の被害については、「食器・電化製品・装飾品等が損傷」が7割近くある。



- 冷蔵庫の扉が開き、中から器ごと飛び出て、食器棚からは器が散乱し始め、横揺れにより部屋の中のあちこちで、高い所から物が落ち始めました。
- タンス・棚に積んでいる物は、ほとんど落ちてきた。特に「観音開き」の戸棚・本棚は中の物が飛び出していた。
- テレビがアンテナ、電源も全部線がちぎれ、ブラウン管が下になって落ちていて電気店の方も来てもらい結線修理してもらった。
- タンスの上の大型テレビが家内の寝床の真上に落ちてきたが、これが夜中だったら大事故になったと思いゾツとした。
- 本棚の前側に戸がないので、一番下の段まで全部振り出されて、何百冊の本がごみ捨て場のように散乱してしまった。

## (3) 電話、電気、ガス、水道等の被害

生活を行う上で必要なライフラインの被害は、「電話が不通となった」が25.3%と最も多い。



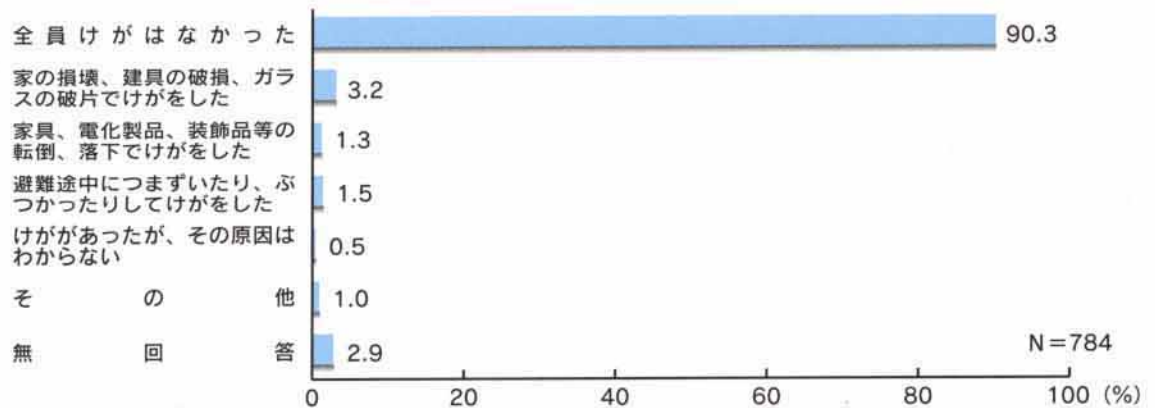
- 自宅前の道路に埋めてあった水道管が破裂し水が吹き出すなど、水が出なくなっている状態で数回電話をしても復旧作業を開始するまでには、かなりの時間がかかった。
- 5ヶ月を過ぎた今ごろになって、水道配管など（家の床下の）に地震の時のゆがみや、揺れで少しずつ傷が出てきたりして水道の水漏れが起こっていた。表面上のことに気をとられていて、土の下のことを忘れていた。
- 断水が続き、これが一番不便であった。



## 10. 人の被害

問 家族の皆様は、けががありましたか。(あてはまるものすべてに○印)

家族のけがの有無は、「(家族) 全員けがはなかった」90.3%と、多くの世帯で地震によるけがはなかった。



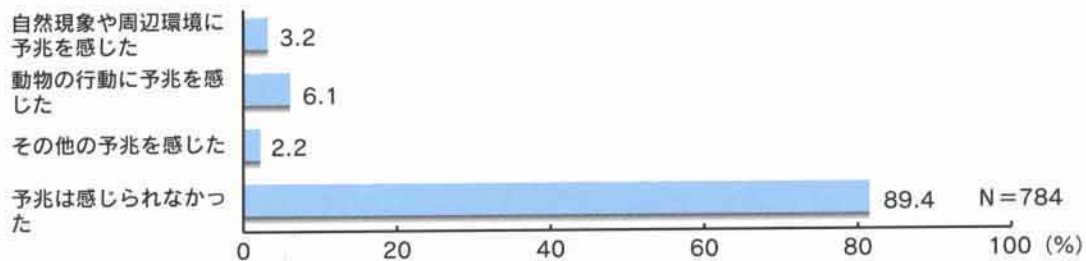
- 地震が起きたとき、慌てて外に飛び出し骨折をしました。後で、つくづく慌てて外に飛び出したりせず、机の下等に入っていたら骨折せずにすんだと思いました。
- 私の母は散歩中に地震に遭い転倒し、大腿骨骨折のケガをしました。
- 地震のショックで父が入院した。全面移転のため、精神的苦痛が大。
- 地震で父が生き埋めになり、死にかけました。まだ病院に入院して治療を受けています。



## 11. 地震発生の予兆

問 自宅又は自宅付近で、鳥取県西部地震が発生する予兆（異常）を感じましたか。  
また、それはいつ頃ですか。（あてはまる項目について、具体的に記入）

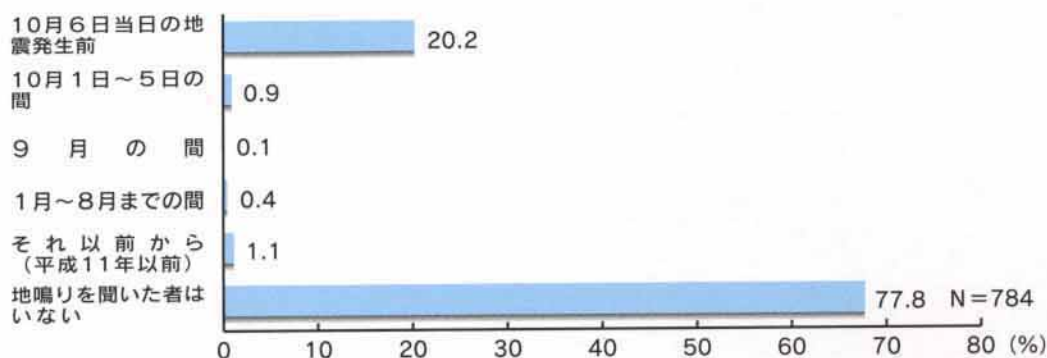
地震発生の予兆については、わずかながら『黒く長い一条の雲が見えた』『水田の一部で雑草が枯れ、水稲も枯れた』などの「自然現象や周辺環境に予兆を感じた」や『ねずみがいなくなった』『鳥やカラスが一斉に鳴きだした』などの「動物の行動に予兆を感じた」とする意見がみられる。なお、「予兆は感じられなかった」には、無回答も含めた。



## 12. 地震発生前の地鳴りの体験

問 地震発生前に、地鳴りを聞きましたか。地鳴りを聞いた時期は、いつ頃ですか。  
（あてはまるものすべてに○印）

地震発生時前に地鳴りを聞いたという回答が2割強ある。なお、「地鳴りを聞いた者はいない」には無回答も含めた。

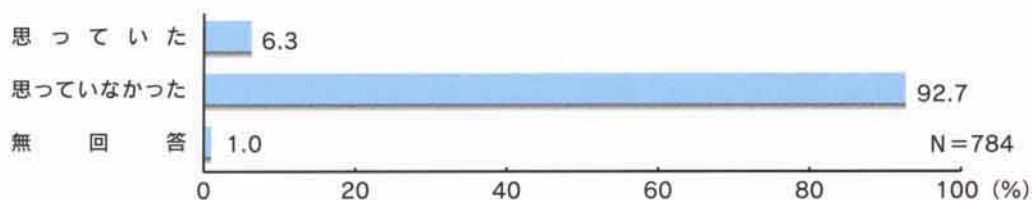


## II 防災活動の状況

### 1. 地震発生の予想

問 鳥取県西部地震のような大きな地震が、近々発生すると思っていましたか。  
(○印は一つだけ)

9割以上の方が、このような大きな地震の発生を予想していなかった。

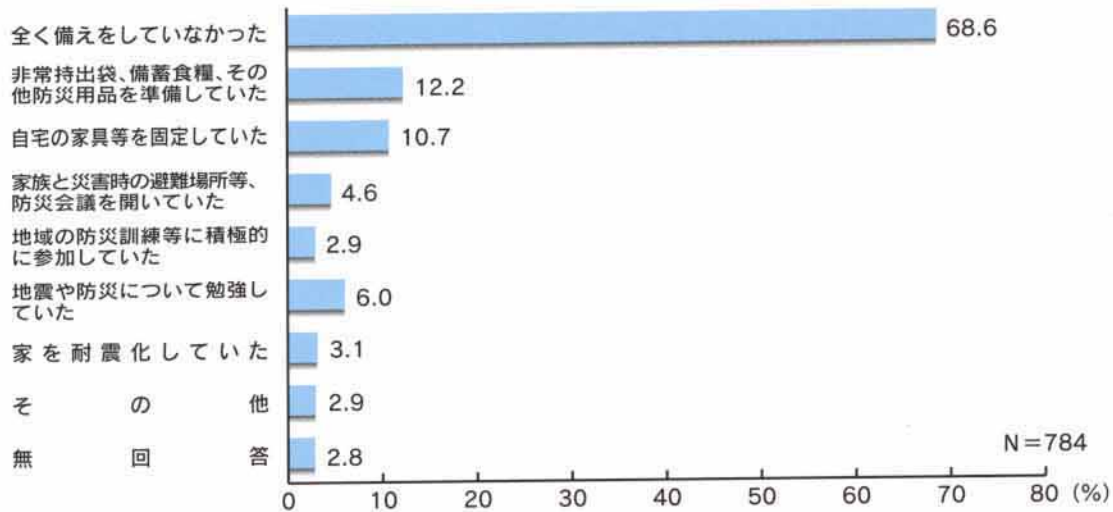


- 自分の所だけは大丈夫ということはないと思った。日本列島のどこが大地震になっても不思議ではない。地震に対する関心を持った。
- 地震雲が毎日のように天空に広がっていて悪い事が起こらなければ良いかと思っていた。
- こんな強い地震が来ない地区と思っていた。
- 数年前、鎌倉山を震源とする地震が連続して発生して多少の地震の発生はありうると感じていた。
- 2~3年前頃から、頻繁に地震があるので「もしや!」と思っていた時に、地震が起きました。
- 西部地域は全く安心と思い込んで暮らしていました。
- 自然災害はやはり、いつ発生するか分からない。

## 2. 日ごろの防災への備え

問 地震発生前から、日ごろの防災への備えをしていましたか。(あてはまるものすべてに○印)

「全く備えをしていなかった」という意見が7割弱と圧倒的に多く、「何らかの備えをしていた」は3割強となっている。

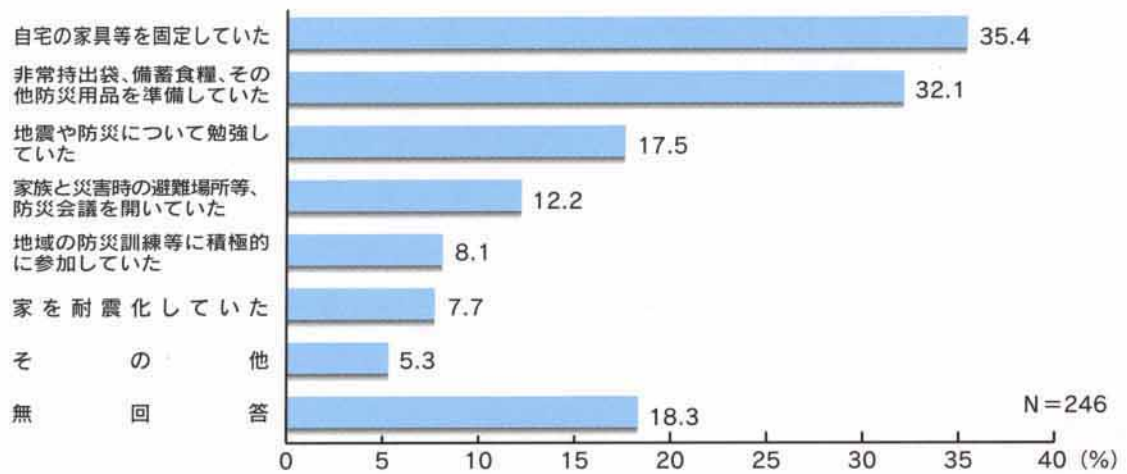


- 阪神・淡路大震災以来、非常持ち出しの用意をしていたが、いざ起こってみると到底一緒に持ち出せない。
- 阪神・淡路大震災後、非常持ち出し袋・備蓄食糧・その他防災用品を準備し、地震保険にも加入したが、次第に危機感も薄れていた。
- 普段から家族に地震があるかもしれないと話していたので、夜寝る時にも頭の上に物が落ちないようにしていた。
- 長男(高知女子大学助教授・地球物理学専攻)から「近いうちに地震が来るかも知れないから、注意するように」との忠告を受けていましたから、常に危機感を持って暮らしていた。
- 出口を確保し、ガスの元栓を閉める。非常持ち出しリュックを作り、いろいろ準備していたはずですが、いざという時はテーブルの下に隠れるだけで驚いて何もできませんでした。
- 多少の防災用品、備蓄食糧等を用意していましたが、転倒した家具の下敷きになり取り出せませんでした。
- 日頃、地震が来たら電気を切って、火を止めて出ると話し合っていたが、この前のようにグラグラと大きなのがくると気がついてみると外に出ていた。
- 持ち出し袋等々、準備していたものの自宅にいなかったため、用をなさなかった。

### 3. 有効だった日ごろの備え

問 日ごろの備えをしていて、有効だったと考えられることは、何ですか。(〇印は3つ以内)

地震時に役立った日ごろの防災の備えとして「自宅の家具などを固定していた」(35.4%)、「非常持出袋、備蓄食糧、その他の防災用品を準備していた」(32.1%)などの回答が多い。

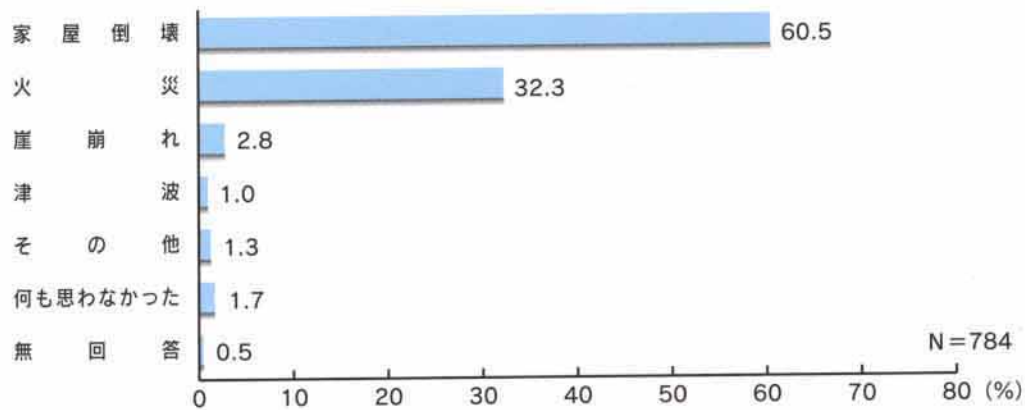


- 家具・調度品は鴨居に針金で転倒防止の予防措置をしていましたので、大きな被害は防げました。
- 阪神・淡路大震災があつてから、自宅の家具等をすべて固定していたので転倒したり、落下したものはなかった。ただし、家具と柱とを木ビスで強く固定していたので、家具の上部が水平に裂けていた物があつた。
- 自宅も地震に強い耐震構造住宅であつたため、今回の大地震でも被害は最小であつた。
- 神戸の地震を見てタンス等家具類を金具で固定していたので、家具等の転倒がなく被害が大変少なく助かりました。(内部の陶器類は仕方なかったです)
- 主人がモチ類が好きで、おはぎを冷凍して7日間、それで食いつないでいた。

#### 4. 地震発生時に最も危険と感じたこと

問 地震が発生した時に、最も危険と感じたことは、何ですか。(○印は一つだけ)

ほとんどの人が「家屋倒壊」または「火災」を最も危険と感じている。



- 避難場所へ行くまで、家々の建っている所を通り抜けるのに屋根瓦また、窓ガラスの飛び散る危険があった。
- 隣の近くに原子力発電所があり、一番に異常がないかと不安になった。
- 私は二階にいましたが階段の側まで行くのがやっとで、柱につかまったまま身動きが

できませんでした。そして家がどちら側に倒れるかそればかり考えていました。

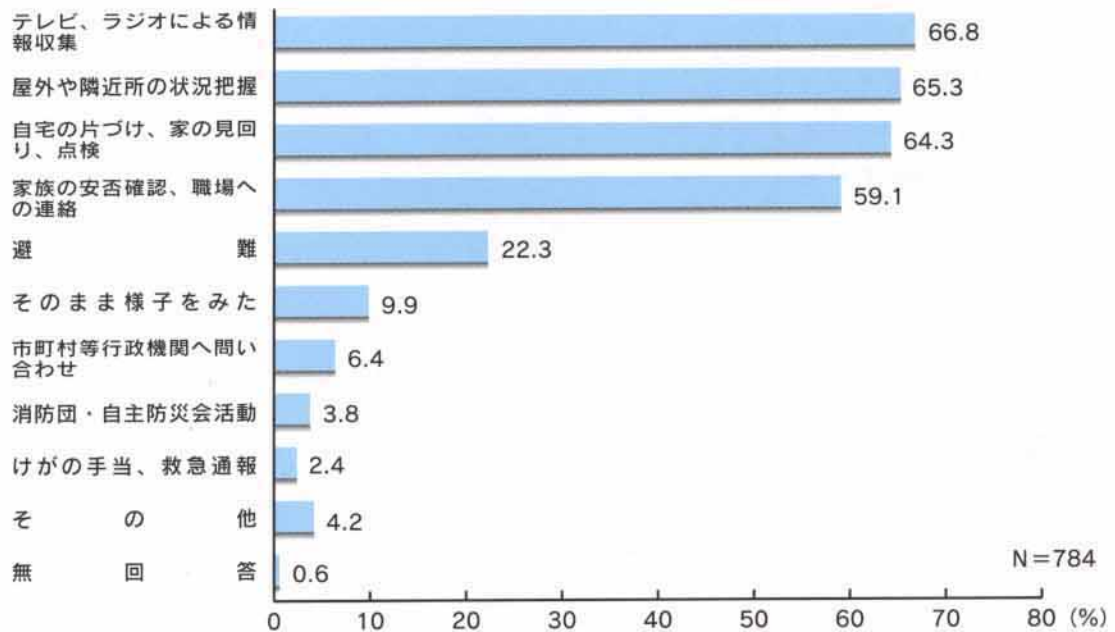
- 会社事務所の揺れは大変すごく事務所が倒壊しないかと一瞬机の下に体を入れました。揺れがおさまらず外に出ました。



## 5. 地震直後（2時間以内）の行動

問 地震の揺れがおさまった後、約2時間以内に行ったことは、何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

地震直後の行動は、「情報収集」「自宅などの点検」「家族の安否確認」に集中している。

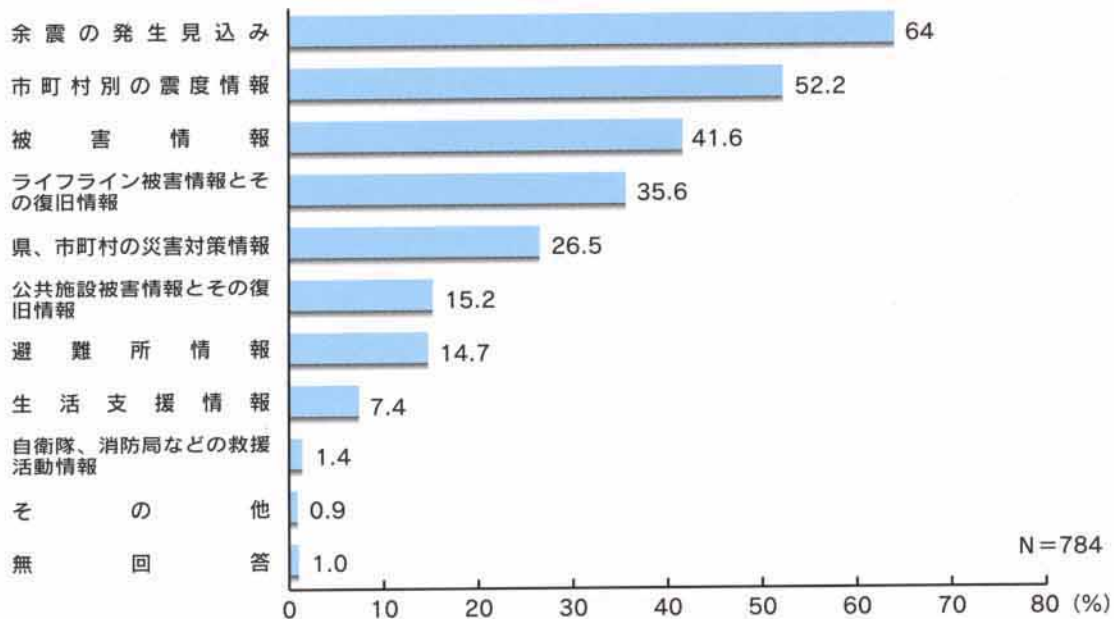


- 自分自身の家の直下が震源であるような感じがして、非常に不安であった。すぐに門前の道路へ出て、隣り近所と被害状況を確認しあった。
- 事前の夕食のために電気釜にお米を研いで準備していたので、電気が使えなくなる前にすぐスイッチを入れてご飯を炊きました。
- 民生委員のため、地震後速やかに「独り暮らしのお年寄り」の家へ、主人（自治会長）と共に巡回しました。
- 家への連絡をして安否の確認をしようにも混乱のため、通信連絡の手段がなく非常に心配であった。

## 6. 最初に知りたかった防災情報

問 地震発生後に、真っ先に知りたかった防災情報は、何ですか。(○印は3つ以内)

半数以上の方が地震発生後、最初に必要とした情報として、「余震の発生見込み」、「市町村別の震度情報」をあげている。



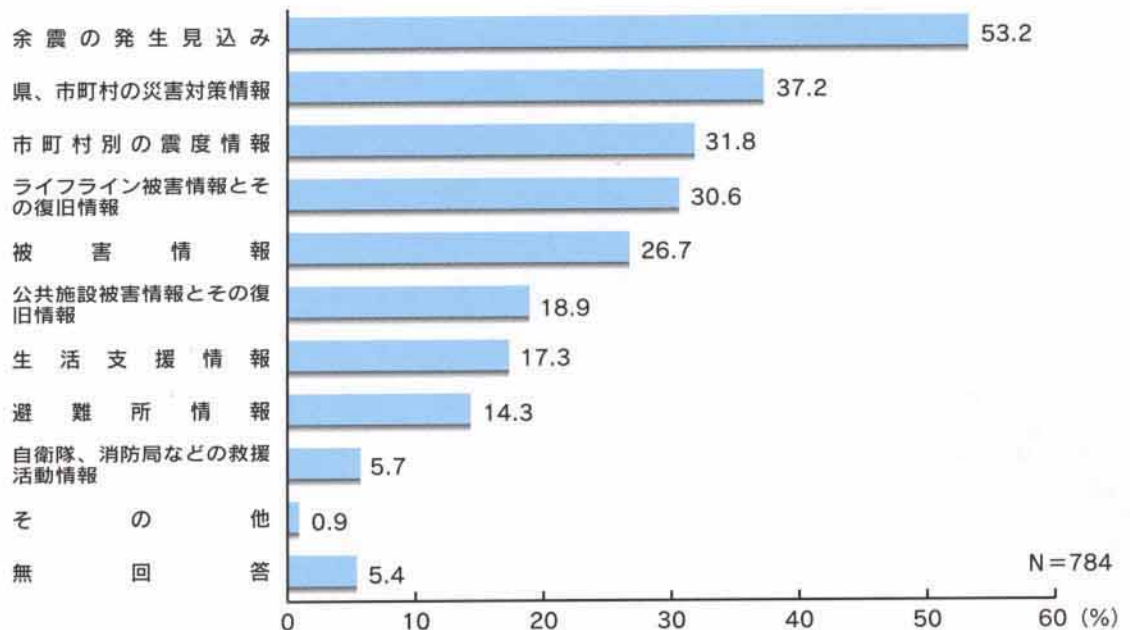
- 地震発生の見込みをしてもらいたかった。余震の見込みもなかった。
- 地域の情報提供や確認のルールやルート。
- 地震や活断層に関する専門的な情報が欲しい。

- 市町村別の震度情報の詳細を早々に知らせること。
- 余震の発生見込みをもっと詳しく知らせること。(テレビ・ラジオを通して)

## 7. 今後、充実すべき防災情報

問 知りたかった防災情報は、十分得られましたか。十分でなかった防災情報、今後充実すべき防災情報は、何ですか。(○印は3つ以内)

今後充実すべき情報は、「余震の発生見込み」が5割以上を占め最も多く、次いで「県、市町村の災害対策情報」「市町村別の震度情報」と続いている。

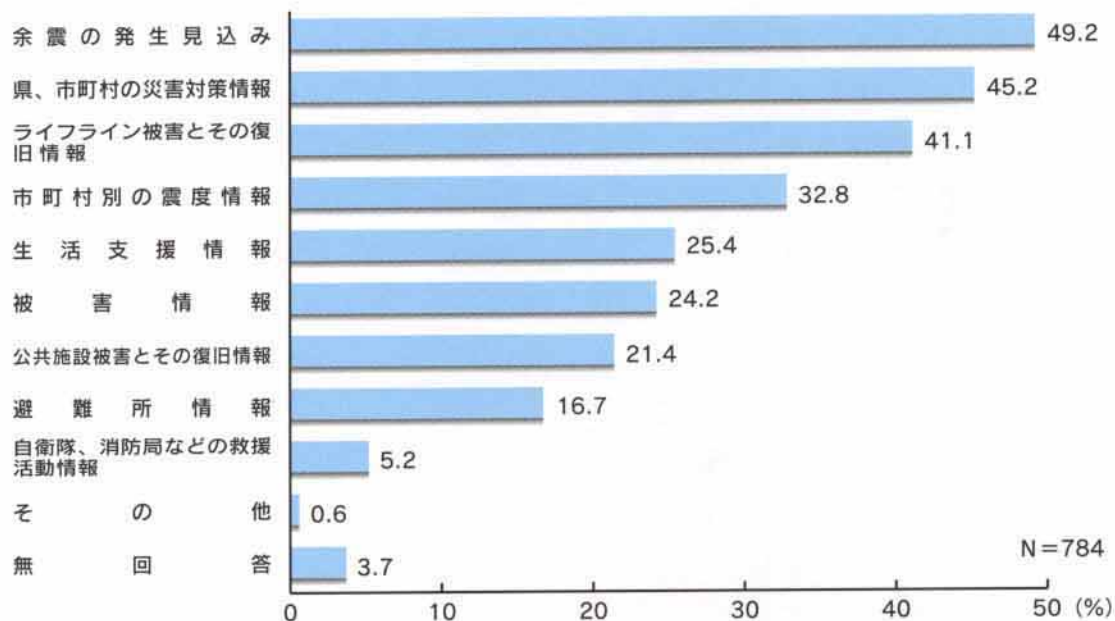


- 余震による不安感は大きかった。専門家による地震のメカニズム情報をもっと多く流していただきたい。情報が少なく非常に不安であった。各家庭への行政から災害情報を流す手段を検討していただきたい。
- 地震発生後（一週間位経ってから）新聞等では有識者により、「鳥取県西部に活断層があり、近い将来地震の発生が予測された」との記事が出た。何事にもよらず、事件が発生してから発表されることに対し、不満を感じると共にこれ等の大害予測を常日頃から掲載して欲しい。
- 学者は研究発表するが、その所在を自治体など公的機関が住民に具体的に情報開示しないので、住民としては不安である（防災マップなどで）
- 地震や活断層に関する調査・研究が進み、危険な地域、時期がある程度特定できるようになることを望みます。

## 8. 県、市町村が提供すべき防災情報

問 特に、県、市町村から提供すべき防災情報は、何ですか。(〇印は3つ以内)

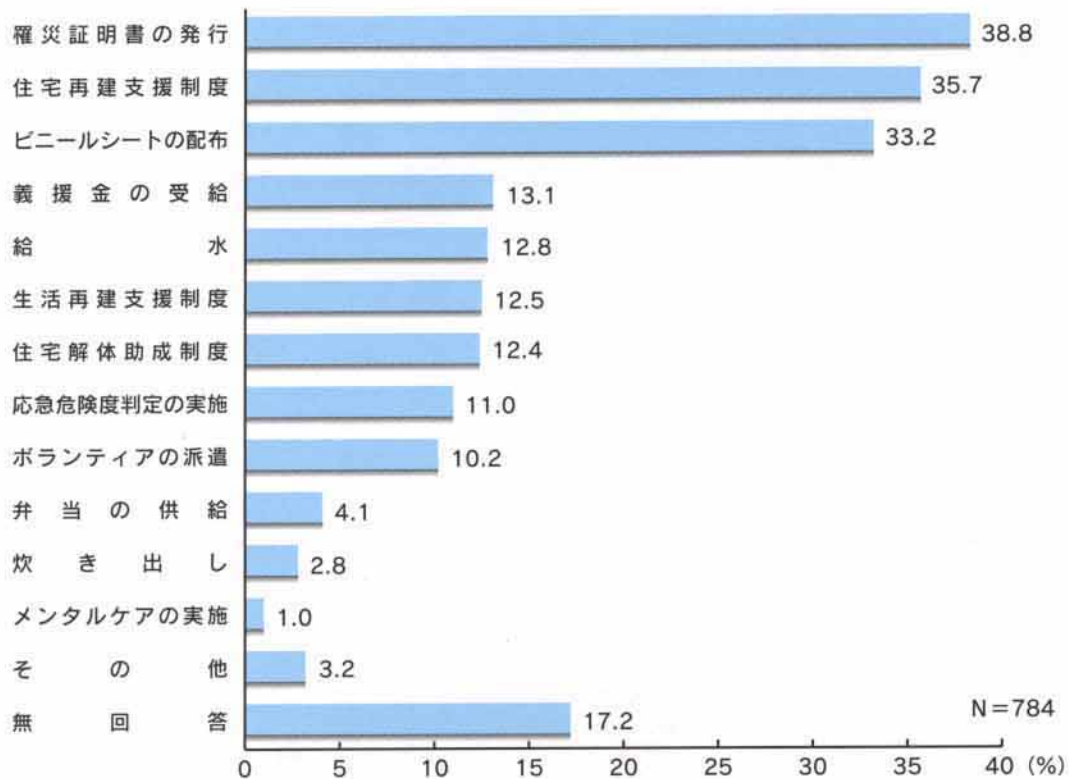
県、市町村から提供すべき防災情報として、「余震の発生見込み」が最も多く、次いで「県、市町村の災害対策情報」「ライフライン被害とその復旧情報」「市町村別の震度情報」などが続いている。



## 9. 有効だった災害対策

問 御家族にとって、とても有効であった災害対策は、何ですか。(○印は3つ以内)

「罹災証明書の発行」「住宅再建支援制度」「ビニールシートの配布」が有効だったという回答が多い。



- 家の損壊による補修資金の助成をしていただいて、本当に助かりました。災害を受け、落ち込んだ気持ちの時に一筋の希望の明かりを見つけた思いでした。
- 県知事、市町村の職員の方々、またボランティアの人々がいち早く一生懸命努力されて被害に遭われた方も心強かったと思います。
- 息子たち、兄姉、親戚、友人等遠方にいる人々たちからの連絡を「災害用伝言ダイヤル」

“171”ダイヤルで知ったことは、大変嬉しく励まされました。

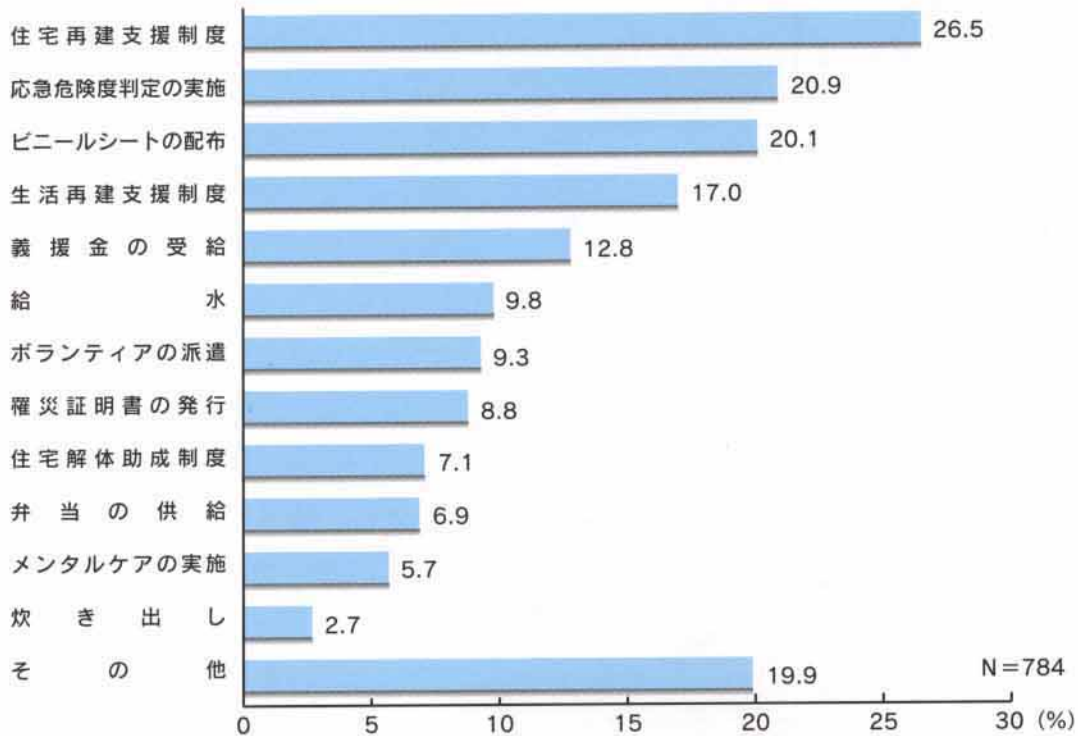
- 住宅損害に対する補助金は額の大小はともかく、非常に心の支えになった。
- 片山知事の速やかな決断、対応はすばらしいと思う。この事により県民、被災地とも鳥取県は安心して暮らせるという精神的にも救われたような気がします。
- 奥日野温泉がその日から無料で入らせてくださった。涙が出るほどありがたかった。



## 10. とても不満と感じた災害対策

問 御家族にとって、とても不満と感じた災害対策は、何ですか。(○印は3つ以内)

不満を感じた災害対策は、上位に「住宅再建支援制度」「応急危険度判定の実施」「ビニールシートの配布」などがあがっている。なお、各項目の具体的な不満内容については、第4章・第1節「県民及び防災関係者が感じた災害対策の不十分な点」において後述する。

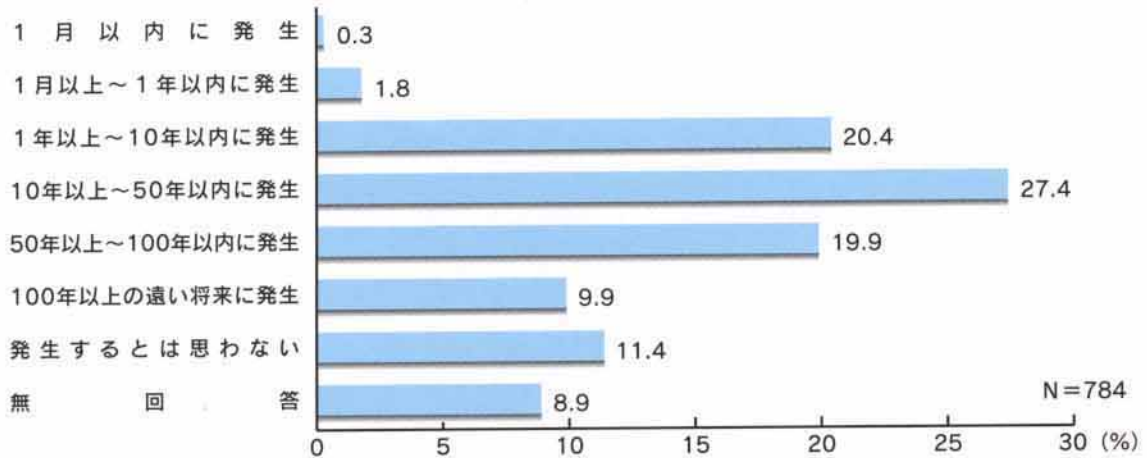


- 災害時に青色ビニールシートが配布され、各家庭にお配りいただきましたが、雨が降り出してもお年寄りの方々が多く、だれも屋根に上る人もなく困りました。
- 報道のヘリがうるさく、大切な市の放送が聞こえない。ヘリは1機使用し、むやみに飛来しないこと。不安をかきたてる。
- 行政機関の各被災者に対する見舞金、援助制度が各市町村によって違っていたこと。不公平の生じない一律の金額にて日本国民として扱って欲しい。
- 震災後、災害調査がなされ被害程度の罹災証明書を受けた。いつ、だれが調査されたか分からない。外観と中身は違います。
- 風呂も町中は自衛隊等が来て対応したみたいですが、私達は1週間も風呂なしでした。弁当も3日目から配布された、もう少し山間部も気にかけて欲しかった。
- 仕事場に防災無線(室内用)がなかったため、外に設置してある防災無線が頼りであったが、設置場所が悪いのか全く聞き取りにくかった。

## 11. 同規模の地震の発生の可能性

問 近い将来、鳥取県の西部地域で、同様の規模（マグニチュード7.0以上）の地震が発生すると思いますか。（○印は1つだけ）

今後、今回と同様の地震の発生については、「10年以上～50年以内」（27.4%）、「1年～10年以内」（20.4%）と50年以内に再び発生すると考える人が半数近くを占めている。

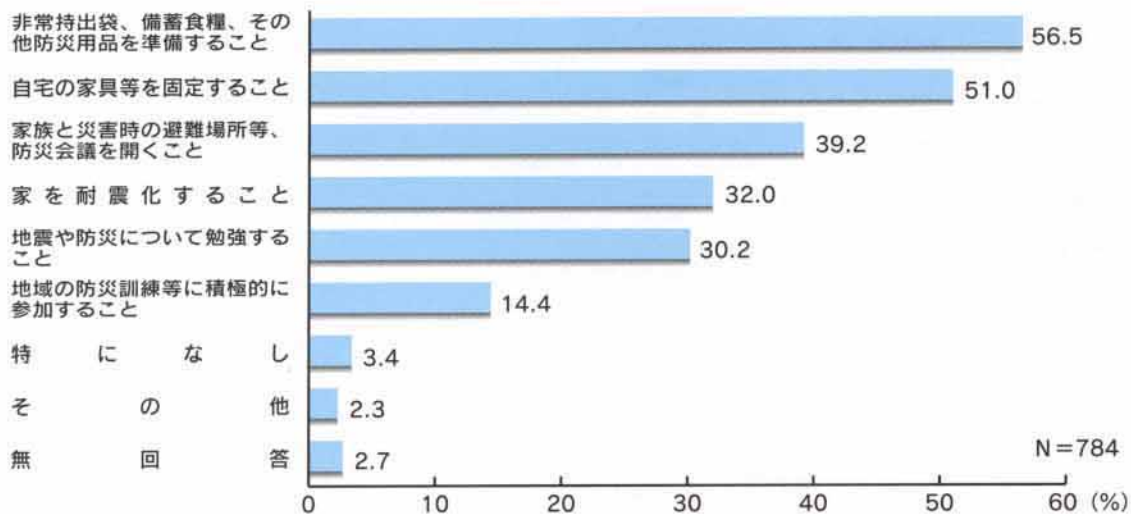


- 鳥取地震より58～59年目に鳥取県西部地震があったのだから、また60年先くらいに地震があると思った方が良い。
- 鳥取県西部地域でマグニチュード7.3の地震が発生するとは思わなかったが、今後50年～100年以内に発生する可能性はあると思う。
- これからは日本列島も活動期になったみたいなので、普段から地震に対する知識をもって対応したいと思う。
- これにより近い将来、再び発生するかもしれないと思っています。

## 12. 家族で取り組みたい防災対策

問 今回の地震を契機に、御家族で取り組みたい防災対策は、何ですか。(○印は3つ以内)

今後、家族で取り組みたい防災対策には、「非常持出袋、備蓄食糧、その他防災用品を準備すること」「自宅の家具等を固定すること」「家族と災害時の避難場所等、防災会議を開くこと」などの項目が続いている。

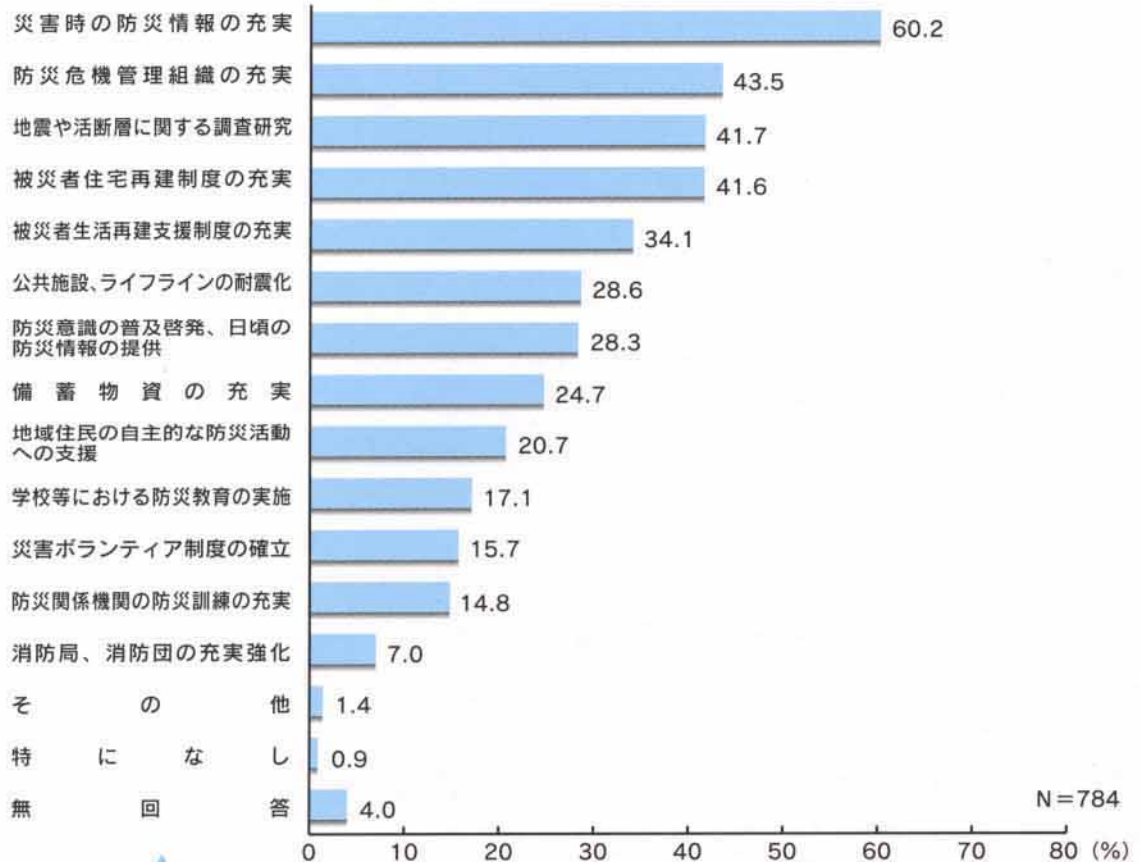


- 対策として、5KW程度の発電機と20時間くらいそれを動かす油の用意をしておきたいと思った。もう一つは、飲み水(ペットボトル3本程度)を用意しておくこと。
- 家の改築時には耐震化するようにしようと思う。備蓄食糧・防災用品を準備しようと思っている。
- 地震や防災対策について、家族で話し合ったり勉強しないといけない。
- 発生直後の周囲の状況判断が甘いと思った。やはり、日頃から判断訓練を今後するように心がけております。
- 日頃から家族一人一人についてどう役割分担して動くか考えていく必要がある。

### 13. 県・市町村で早急に強化すべき防災対策

問 今回の地震を契機に、県や市町村で早急に防災対策を強化すべきと考えることは、何ですか。(〇印は5つ以内)

早急に強化すべき防災対策として、「災害時の防災情報の充実」が最も多く、次いで「防災危機管理組織の充実」「地震や活断層に関する調査研究」「被災者住宅再建制度の充実」「被災者生活再建支援制度の充実」などが続いている。



- 1 部落に 1 箇所くらい、赤電話を付けてもらいたい。
- 市町村、広域行政の連携について改めて、地域住民によく分かる救済対応など考え直して欲しい。
- 県や市町村に防災の認識を再度検討してもらって、今の現状でなくもっと充実した防災計画やチェックリストの作成を早期にてもらいたいのと、器材の装備をお願いしたい。
- これを教訓に我が家でも対策を講じることはもちろん、地域（町内）でも情報交換や防災組織作りをし、助け合っている町づくりが必要だと感じました。
- 突然の災害の時、どこに避難すれば良いかわからないので、緊急の時のために地区の住民の人にどこへ逃げると良いかを指導しておいて欲しいと思いました。
- 集落と町部との交通手段を早急に確保することが一番大切なことと痛感した。



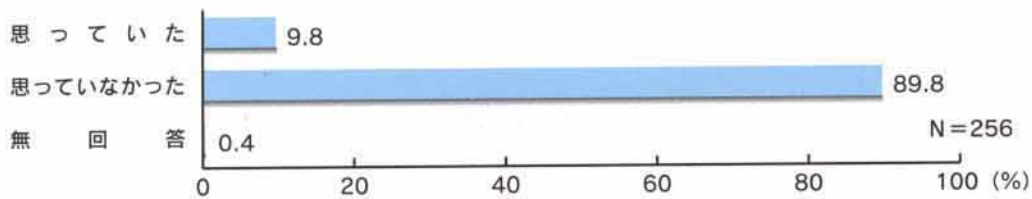
## 第3節 防災関係者アンケート調査結果

### I 地震発生時の状況

#### 1. 地震発生の予想

問 鳥取県西部地震のような大きな地震が、近々発生すると思っていましたか。  
(○印は一つだけ)

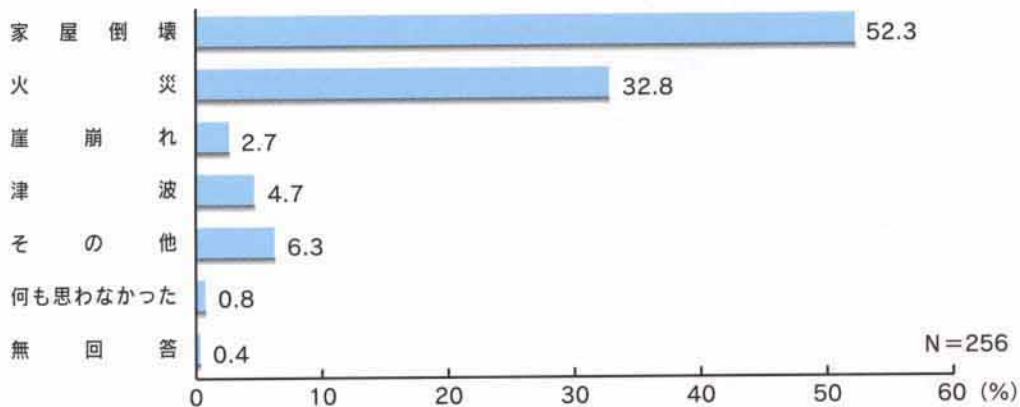
約9割の人がこのような大きな地震の発生を予期していなかった。



#### 2. 地震発生時に最も危険と感じたこと

問 地震が発生した時に、最も危険と感じたことは、何ですか。(○印は一つだけ)

多くの人が、「家屋倒壊」または「火災」の発生を最も危険に感じている。

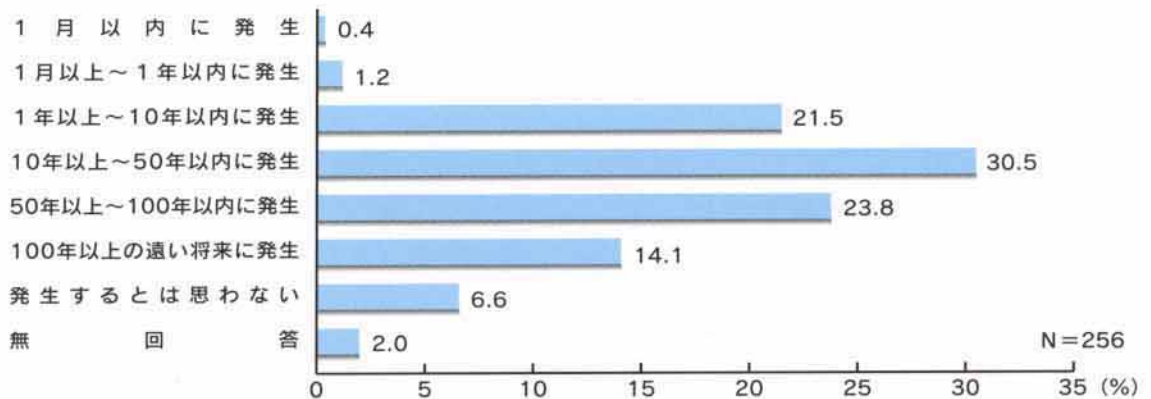




### 3. 同規模の地震の発生の可能性

問 近い将来、鳥取県の西部地域で、同様の規模（マグニチュード7.0以上）の地震が発生すると思いますか。（○印は一つだけ）

今後、今回と同様の地震の発生については、「1年以上～10年以内」（21.5%）、「10年以上～50年以内」（21.5%）と50年以内に発生すると考える人が半数以上を占めている。

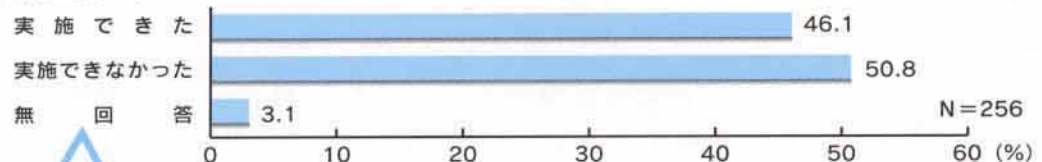


## II 防災活動の状況

### 1. 防災活動の実施

問 地震発生後のあなたの防災活動について、普段考えていたとおり実行できましたか。（○印は一つだけ）

「（普段どおりに）実施できた」（46.1%）、「（普段どおりに）実施できなかった」（50.8%）がほぼ同程度となっている。

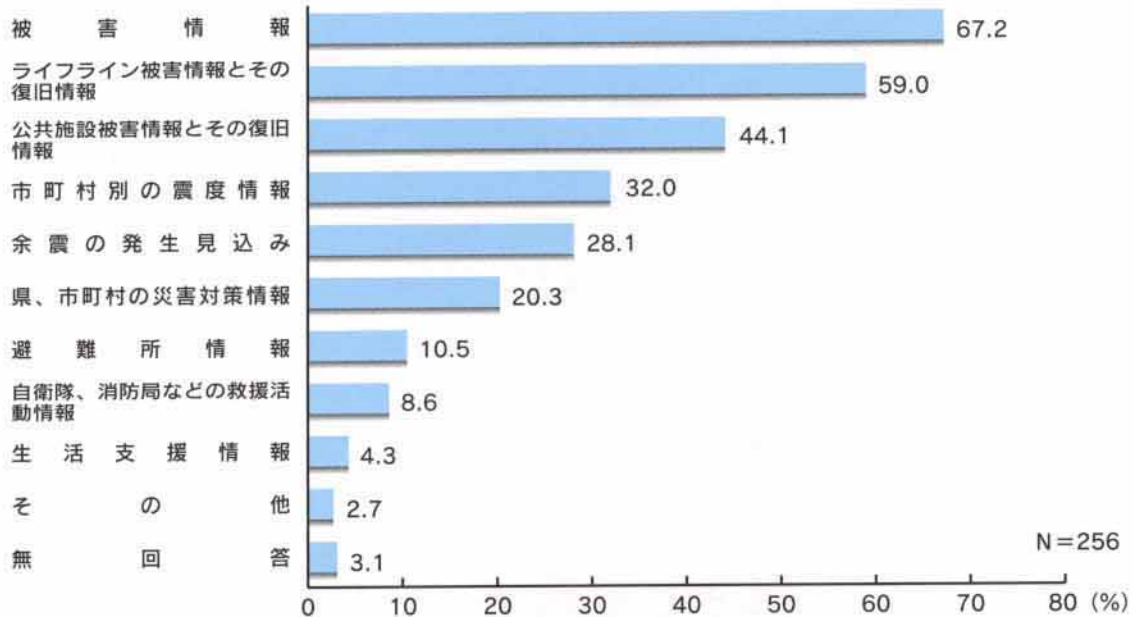


- 予測と実際の体験ではかなりの行動が違う。  
（日頃からの訓練等により、冷静な判断ができるようにしておきたい）
- 主な被災地については災害発生直後に職員を現地に派遣し、水道の断水、水の濁り、家屋の倒壊、道路水路の破壊等についてまのあたりに見る（見てこさせる）ことができた。
- 鉄道業の使命である安全を確保すること。  
列車を抑止して、安全点検を実施し、安全確認ができた時点で公共交通機関としての役割が果たせたこと。
- 阪神・淡路大震災を体験していたので、対応は素早く対応できたと思っている。
- 職員が地震発生後、直ちに所管の水力発電施設、工業用水道施設の被害状況の調査点検を行って迅速に所要の対応をし、応急復旧工事を早期に完了させた。
- 勤務時間であったこともあり、道路部の職員がすぐに災害対策室に集合し、対応できた。
- 地震発生時に思い描いていた様に全く動けなかった。
- 過去会社内での災害対策業務の経験から地震発生後の初動体制等ある程度対応が円滑にできたと思った。

## 2. 防災活動のために最初に必要とした防災情報

問 地震発生後、防災活動のために真っ先に必要とした防災情報は、何ですか。  
(○印は3つ以内)

防災活動を行う上で、最初に必要となった情報は、「被害情報」「ライフライン被害情報とその復旧情報」「公共施設被害情報とその復旧情報」などが上位を占めている。



- 現地の情報が詳しく分からなくて、服装、準備品に戸惑った。情報をできるだけ集めて、その状況に応じた心と身体の準備をして行動することが大切だと思った。支援活動に行く時のマニュアルが必要だと思った。
- とりあえず当社の被害状況の把握に努めました。
- 地震発生時に一番必要とする通信手段が取れなく（電話不通）、職員や家族の安否確認、家屋の被害情報がかみかず不安であった。  
(また、出先機関との連絡が取れず、情報収

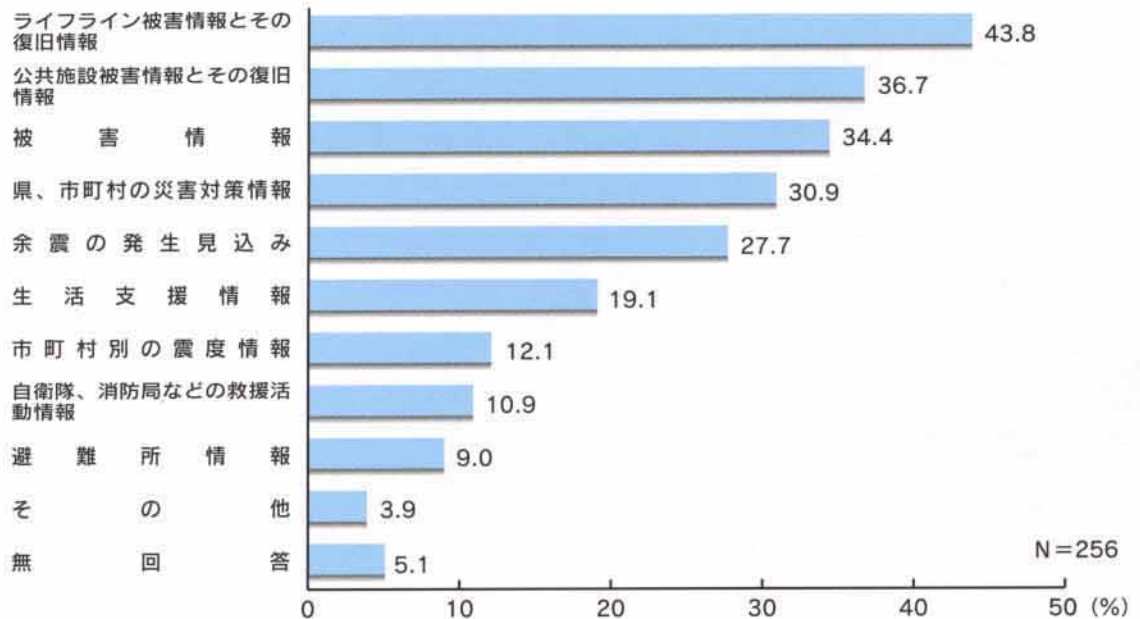
集に困難を極めた)

- 電力設備を維持している職務上、地震による設備被害の状況を確認することと停電している箇所の早期復旧を最優先して仕事に当たった。
- 教育委員会と連絡を取り、ただちに家庭へ生徒の安否を知らせること、無事に帰宅させることを最優先に考え、防災無線等を使って全家庭に全員無事に保護者の元へ子どもを帰すことができた。

### 3. 十分得られなかった防災情報

問 必要とした防災情報は、十分得られましたか。十分でなかった防災情報、今後充実すべき防災情報は何か。(○印は3つ以内)

必要としていた情報で十分得られなかった情報は、「ライフライン被害情報とその復旧情報」「公共施設被害情報とその復旧情報」「被害情報」などが上位を占めている。

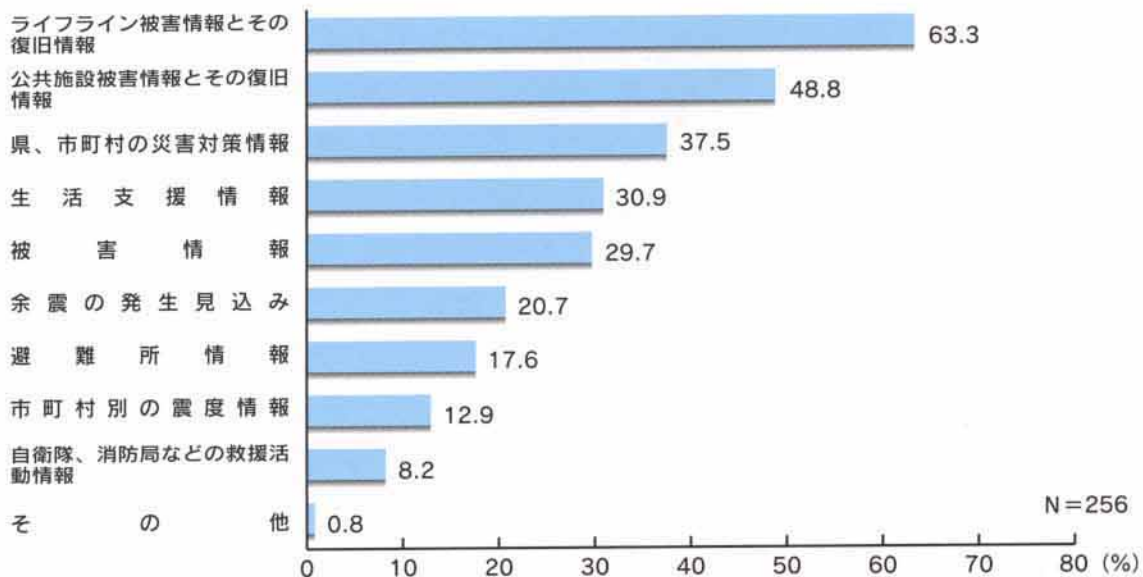


- ガスの供給状況、被害状況が分からずやきもきした。
- 公的な職業に従事しているが、情報が少なく大部分をマスコミに頼っていた状態である。
- 江府町の震度計は気象庁と連動されていないため、大変住民に不安を与えた。
- 海が近く、海岸にいる人々に災害情報を早く伝える方法がみつからなかった。
- 地震発生直後に被災地に通じる道路の通行状況の把握が困難であった。
- ラジオによる情報が一番伝達される確率がよく、テレビによる情報は家屋内の倒壊等、電源の確保が難しいために困難である。
- 携帯電話が不通となるなど、リアルタイムの情報が入りにくかった。

#### 4. 県、市町村から提供すべき防災情報

問 特に、県、市町村から提供すべき防災情報は、何ですか。(〇印は3つ以内)

防災関係機関が、県や市町村から提供してほしい情報は、「ライフライン被害情報とその復旧情報」「公共施設被害情報とその復旧情報」「県、市町村の災害対策情報」などが上位を占めている。



- 県から県下各消防局への速やかな情報提供が必要。県が把握した、各消防局、警察、自衛隊、市町村、病院等からの情報を集約した災害情報のフィードバックが必要。緊急消防援助隊情報。
- 被害状況がどの程度でボランティアが派遣してもらえるのか、また、1人世帯の老人等は利用する方法を知らない面もあり、市町村での今後検討が必要。
- 県の広報活動について、チラシを作成し配布するのは良いが、被災市町村に対して送り付けるだけではどうかと思う。

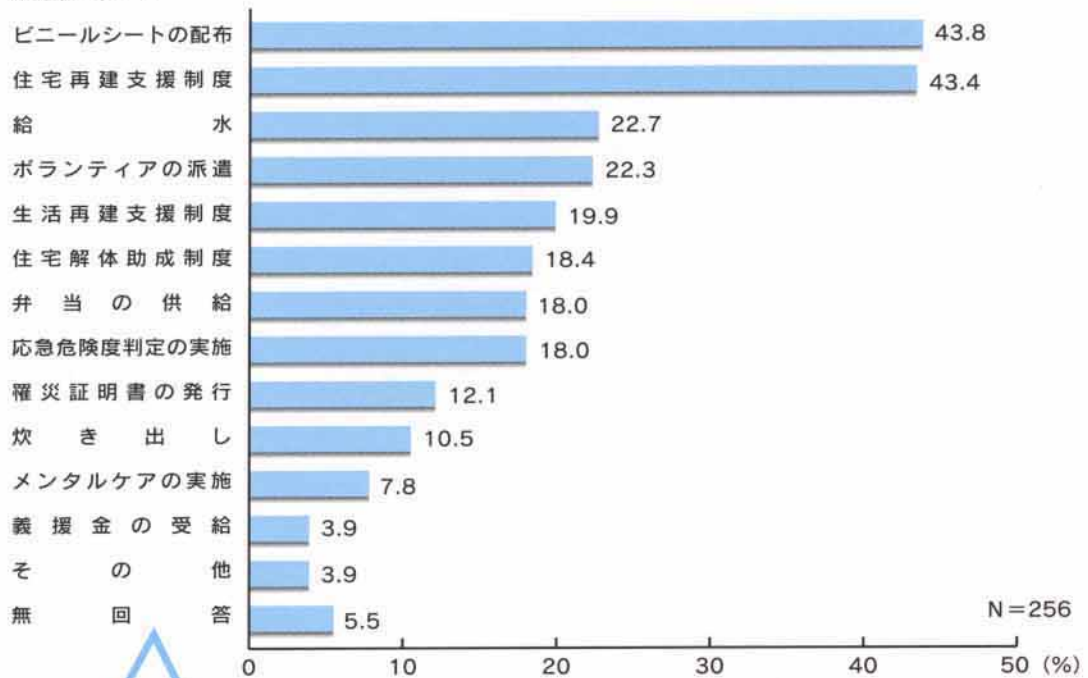
- 県・町の対応が早かったことは大変良かった。逆に早過ぎて内容があいまいで判断しにくい所もあった(災害復旧融資制度。特に運転資金の取扱い)
- 県・市町村の災害対策情報をTV(例えばNHK)やインターネットで迅速に広報することが有効と思う。
- 日野町の災害情報がいち早く流れてよかった。
- 生活支援策の広報が遅れたことが生活不安を助長したように思う。



## 5. 有効であった災害対策

問 今回の震災対策で、特に有効であった災害対策は、何だと思えますか。  
(○印は3つ以内)

災害対策として、有効だった対策は、「ビニールシートの配布」「住宅再建支援制度」が圧倒的に多い。



- 知事ら県幹部の被災地視察が早い。また、国会議員らの現地視察も多く、しかも早いなど対応が良かった。やはり、まずは災害のあった現場を見るのが先決だと思う。
- 県・町の対応が早くてよかった。ボランティアの人が多く集合してよかった。
- グランドには何ひとつ情報が入らないので、余震は続いていたが職員の車をグランドに入れ、ラジオで情報収集しました。
- 災害時の避難場所、役割等ができていたもので、その役割分担がこの度生かされ、お年寄りから子供まで迷うことなく避難所へ誘導でき、避難しないですむ家も一軒一軒確認して区民全員迷わず、過ごされたことは10年以上やって来たコミュニティの結果と思っています。
- 地震直後、職員の1人が全館放送で「慌てないで落ちついてください。職員の指示に従って行動をお願いします」との機転の放送で、随分心が安らいた旨、後刻聞きおよび良い行動

だったと思いました。

- 知事の動き・判断・決断・実行の早さが結果的に被災者の大きな安心感等につながったと思う。
- 食糧や応急物資等も被災地であった米子市等から調達できたのは幸いだった。
- ボランティア活動には感激しました。また特に役場職員は皆必死に頑張っており、ライフラインの復旧に努力してくれた。
- 全国に先駆けて緊急を要する中での“住宅再建支援制度”“住宅解体・助成制度”が制度化されたことは評価されると思います。
- 自らの災害復興のみならず地域の自衛消防団や地域のボランティア組織の一員として、地域が一体となって復興に取り組めた事はすばらしいことであると思う。
- 行政の対応の早さや防災無線の重要性、情報の的確さ等、行政が県民や町民のために本当に親身になっての対応に敬服します。

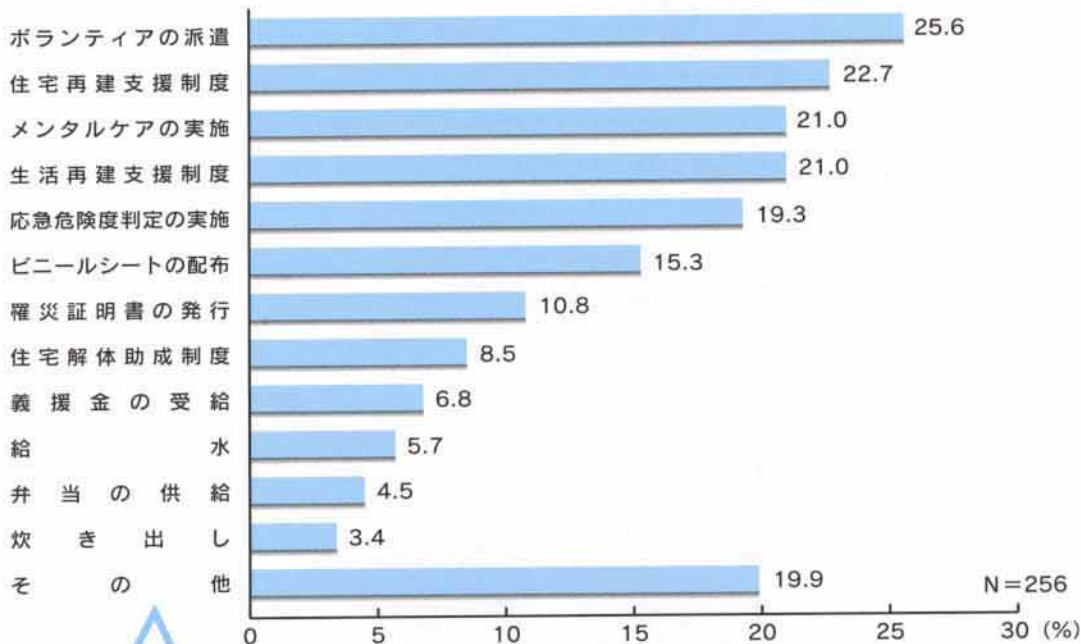


## 6. 不十分であった災害対策

問 今回の震災対策で、不十分であったと思われる災害対策は、何だと思えますか。  
(○印は3つ以内)

「ボランティアの派遣」「住宅再建支援制度」「メンタルケアの実施」「生活再建支援制度」「応急危険度判定の実施」などが上位を占めている。

なお、この災害対策が不十分だと感じた回答者が多い内容については、第4章・第1節「県民及び防災関係者が感じた災害対策の不十分な点」において記載している。



- 地震による災害も判明し、緊急な出勤もなく落ち着いてくると、長期間勤務したことによる精神的なストレスが溜まり、それを取り除くために苦勞した（一時、隊員同士が衝突することもあった）
- 復旧作業を行うに際し、緊急的に対応できる土木業者が少なく（作業員、機械等の確保）苦勞した。
- 援助、復旧よりも報道のみを優先し、活動の大きな妨げになった報道陣に対しても猛省を促したい。今の報道陣の本質を表しているものだと感じた。
- 被害調査を急がせ過ぎた。ライフライン関連のみに絞り、その他はあとにすればよかったが、かなり上層部から数字に対する

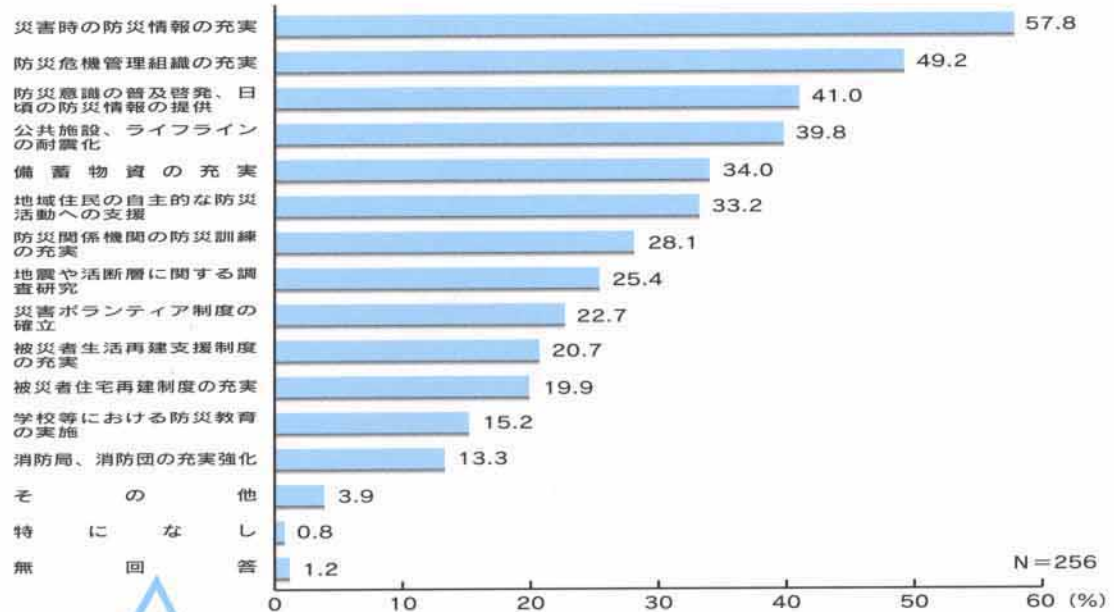
プレッシャーがかかり、出先へ無理を言った。今後は担当レベルで調整を行い、出先の状況にあった調査進行を行いたい。

- 震災発生時、最初に電話で情報収集したが、実際に市町村に派遣され感じたこととして、県の各部局からの電話がとにかく多すぎる（同じ内容の電話が多い）。電話対応だけのために時間がとられ、震災対策に支障が出ていた。
- 大規模災害時対応マニュアルがあるのに、皆が内容をよく知らず活用できなかった。
- 罹災証明について、各市町村によって判定のばらつきがあったため、県全体でマニュアルの確立ができていたらと考える次第です。緊急時にばらつきが出てしまったのも仕方ないことです。

## 7. 県、市町村で早急に強化すべき防災対策

問 今回の地震を契機に、県や市町村で早急に防災対策を強化する必要があると考えられることは、何ですか。(○印は5つ以内)

早急に強化すべき防災対策として、「災害時の防災情報の充実」が最も多く、次いで「防災危機管理組織の充実」「防災意識の普及啓発、日頃の防災情報の提供」「公共施設、ライフラインの耐震化」などが続いている。



- バイパス的な道路、あるいは農道等があることによって交通が麻痺することなく、住民生活も保たれた。生活に必要な道路網の整備は絶対に必要だと痛感いたしました。
- 震災発生後、各市町村毎に速やかに県職員を張り付け、この職員が県と市町村の間に立つことが良い。県職員は、少なくとも普段から各市町村の事業関係担当者とは面識を持つべきであるし、被災地への説明や巡回を行う職員は、そのような職員を派遣すべき。
- 県、市町村対策本部への職員派遣を行い、情報の収集、効果的な災害応援出動を行うことが必要（市町村へはすでに派遣している）
- 住宅復興補助制度について、事業主体である市町村の判断によって運用にバラツキがあり、不公平感をもたれる場合があった。今回は急遽、立ち上げた制度であり、やむを得ないが市町村にあらかじめ趣旨をよく説明した上で、ある程度統一した制度にしたほうが良い（補助金額申請期限など）
- 地元CATV局などを災害情報提供により一層積極的に活用しても良いのではないかと。
- 震災発生による日々よりの対策マニュアルの整備と即応体制の強化。
- 被害状況について、報道・消防・警察・県等からの問い合わせがあったが、復旧作業で忙しい中、何回も繰り返しになるので、情報の一本化が必要だと思った。
- 機転の利く人材の育成を行う。
- 被災市町村と県の情報一本化が必要。応援出動についても、当該市町村と県の意思が異なるとは、効果が発揮できない。
- 今回必要とされた物資の種類や量から、あらゆるケースを想定して、緊急物資のリスト、調達先や輸送方法等のマニュアル、現地で調達できない場合の支援体制などを構築する必要があると思われる。
- 住宅復興補助金は制度としては、一定の評価がされると思うが、適用者の範囲等でもっと検討する必要があるのではないかと考えている。